

## 目 次

発刊によせて	2
Q1 待合室で大声をあげて騒いでいる	4
Q2 待合室でゆっくり待つことができない	6
Q3 注射をこわがって採血できない	8
Q4 体に触られるのを嫌がって検査できない	10
Q5 症状をうまく聞き取ることができない	12
Q6 一人で通院してくる	14
Q7 治療のときじっとしてられない	16
Q8 薬を処方どおりに飲まない	18
Q9 つきそいなしで入院する	20
Q10 入院中に病院内を歩き回る	22

## 発刊によせて

プロテクション・アンド・アドボカシー・大阪  
代表理事 辻川圭乃

病気になったり、けがをすれば誰でも弱気になります。いつ治るのだろうと不安になります。知的な障害のある人は、現状の変化に弱く、見通しをつけることが苦手なため、病気やけがのとき非常に不安な状態に置かれます。想像してみてください。頭が痛かったり、血が出たりして、いつもと違う、でも、自分の体の中で何が起きているのかわからない、しかも、この状態がすぐに治まるのか、それともずっと続くのかわからない、怖くて、不安で不安でしかたがない、そんな状態に置かれているのかもしれない。そんなとき、安心して信頼できる医療機関があればどんなに心強いかしれません。

2006年12月13日、国連で障害者権利条約が採択されました。わが国も本年9月に署名しましたが、同条約の中に、健康に関する規定も置かれています。その中に、「保健の専門家に対し、特に、十分な説明に基づく自由な同意を得た上で、他の者と同一の質のケアを障害のある人に提供するよう要請すること(仮訳)。」という一文があります。歴史的に、障害のある人が障害を理由に不当に診療を拒否されたり、本人に十分な説明をしないまま本人の意思を無視して治療をしたりといったことがあり、障害のある人の人権が守ら

れていない過去がありました。この条約は、障害を理由とした差別や不利益取扱いを根絶する社会を目指しています。

待合室で大声を出したり、注射を嫌がって大暴れするので、「専門病院へ行ってくれ。」と診療を拒否された人がいます。また、成人した息子が交通事故で入院することになったとき付添を要求された母親がいます。他方、白い服を怖がる人に対して白衣を脱いでスムーズに診察できた場合があります。何度も練習してやっとMRIの検査ができた人もいます。

知的障害のことをもっと知ってください。知的な障害がある人々にとって、周りの人々の理解こそがバリアフリーなのです。知的な障害のある人にとって、耳から入る情報よりも、目で見る方がわかりやすい場合が多いです。それも、文字より絵の方が理解しやすいので、絵カードやコミュニケーションボードといった視覚的手段を使って情報を伝えることが有益です。本書は、医療機関で働く方たちが知的障害について日頃疑問に思っておられることや困っておられることとその解決方法を具体的にまとめたものです。

ひとりでも多くの医療機関で働く方々が本書を利用され、知的な障害がある人のことを理解してくださることを、そしてひとりでも多くの知的な障害のある人が少しでも安全に自由に、楽しく生活を送れるようになることを願ってやみません。どうかご協力をお願いいたします。

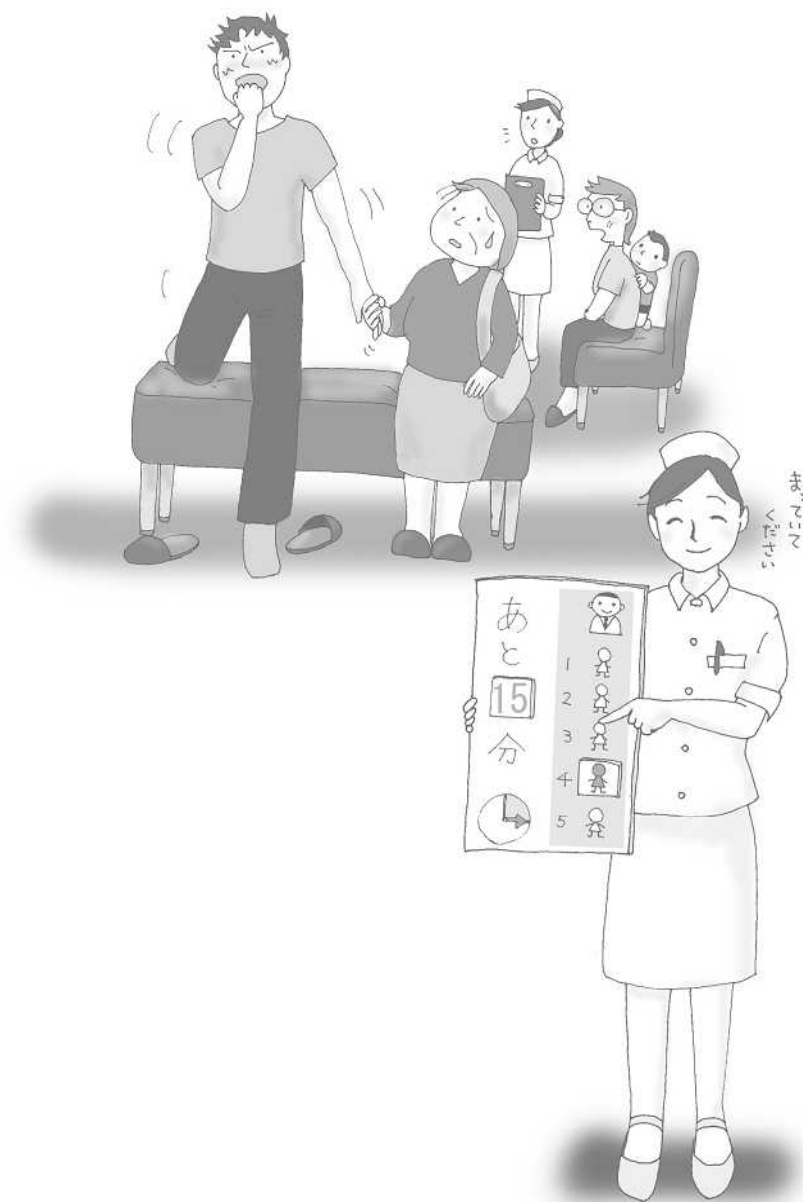
**Q1** 待合室で大声をあげて騒いでしまって、  
順番を待てません。

**A** 知的障害のある人は、環境が変わったり、初めての場所に来たりすると、うまく適応できない場合があります。また、自分がここで一体、何をされるのかがわからないために、見通しをもてずに不安になります。

あとどれくらい待てば診察を受けられるか、具体的に示すことで落ち着くことができます。

⇒ 「あと 人で、あなたの順番ですから、  
分待ってください。」  
などと、具体的に伝えてください。

あらかじめ混んでいない時間帯などを案内しておく  
とよいでしょう。



**Q2** 人がたくさんいる待合室では、  
ゆっくり待つことができない人がいます。  
どうしたらよいでしょう？

**A** 障害のある人の中には、知らない人が多くて慣れない  
ところは苦手な人もいます。  
しかも、これから何をされるかわからないと不安になり、  
パニックを起こしてしまう場合などもあります。  
そんなとき、まわりの人から拒否的な態度をとられると、  
ますます不安定になってしまいます。

静かに待つことができる場所(別室)があると落ち着  
きます。

本やおもちゃ・ビデオなどがあれば、気分を変える  
ことができます。

そのような場所がどうしても確保できない場合は、  
車の中や屋外など、待ちやすい場所で待機しても  
らい、順番が来たら呼び出す、という対応もひとつ  
の方法です。

物理的な条件を少し整えるだけで、解決できることが  
あります。



### Q3 注射をこわがって、採血をさせてくれませんか。どうしたらいいのでしょうか？

**A** 病院というのは、ケガや病気を治すところであることを、まず、わかりやすい言葉で話してください。

検査をするのも、病気やケガを治すために必要であることを、わかりやすく伝えてください。

障害があるから、言ってもわからないだろう、と思わずに、安心させるよう対応してください。

⇒ たとえば、「注射はちょっとチクツとするけど、すぐ終わりますよ」などと、前もって伝えてください。

わかりやすく伝えるためには、実物を見せたり、絵カードなどを使って、次になにをするかを具体的に示すことは有効です。



**Q4** 体に触られるのを嫌がるので、聴診器をあてることもできません。  
必要な検査も容易にできません。

**A** 知的障害のある人の中には、急に体を触ると、びっくりしてしまうことがあります。

からだに触る前に、「どれぐらいの時間」「どんなことをするのか」を、まず伝えてください。

手のひらなどに器具をあててみて、どんな感じが体験してもらうのもひとつの方法です。

「からだの悪いところをしらべる」ための検査や診察であることを伝えてください。

あらかじめ絵カードなどをつかって、どんな検査をするのかを、きちんと伝えておくといいでしょう。



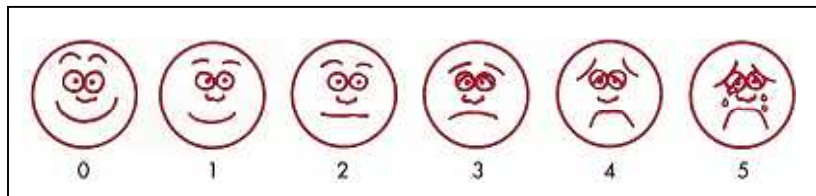
## Q5 具合が悪いところや痛みの程度などの 症状をうまく聞き取れません。

**A** まず、「あなたの具合の悪いところを治すために、どこがどう痛いのかを教えてください」とやさしい言葉で話し、信頼してもらうことがなによりも大切です。

ことばでのコミュニケーションが苦手な人には、「どこが痛いのか?」「どれくらい痛むのか?」を絵カードやジェスチャー、フェイススケールなどを使って、聞きとることもひとつの方法です。

白衣がこわいという人もいます。白衣を脱ぐことで、こわがられずに診察できた、という例もあります。

\*フェイススケールとは? …… 痛みなどの度合いを顔の表情などであらわすツールです。



Wong&Baker のフェイススケール



**Q6** 障害のある人が一人で通院してきました。  
どう対応したらいいでしょう？

**A** 障害があるからといって、必ずつきそいが必要というわけではありません。  
自立心をやしなったり、生活経験を広げる、ということから、一人で病院に行く場合もあります。  
しかし、「はい」という返事をしていても、医者 of 言うことが理解できていなかったり、病状に対する医者 of 指示が、きちんと伝わらないこともあります。

そういう場合も考慮して、

注意事項などについては、メモにして持ち帰ってもらおうと、家族や生活支援者にも、病気やケガの状態がきちんと伝わり、必要な対応をとりやすくなります。

メモを渡したからといって、説明を省くことはしないでください。

大阪府が出している医療サポート手帳なども活用してください。





**Q7** 歯科や耳鼻咽喉科で治療をしようとすると、  
じっとしていず、処置ができません。  
どうしたらいいのでしょうか？

**A** 知的障害のある人は、はじめてのこと、はじめての人、  
はじめての場所に対して非常に不安が強くなりがちで  
す。

これから使う医療器具は、なんのために、どのよう  
に使うのかを前もって説明すると不安が少なくなりま  
す。

医療器具を実際に触らせてみたり、器具の音を聞  
かせることは安心につながります。

口を大きくあけてがまんする練習をするなど、日ごろ  
から、病院などでの治療の疑似体験をしてもらうことで、  
スムーズな受診につながった例があります。



**Q8** 薬を処方しても、一度にたくさん飲んでしまったり、忘れて飲まないなど、処方どおりに薬を飲んでくれないことがあります。

**A** 薬を飲むのは、悪いところを治すためだということや、どのような効果が期待できるのかを、わかりやすく伝えてください。

1回分の飲む量がわかるように、分包して渡すと、間違えないでいいでしょう。

服薬時間や注意事項などは、言葉だけでなく、絵や文字を使ってわかりやすく伝えてください。



## Q9 つきそいがいなくても、入院生活を送ることができるのでしょうか？

**A** 入院中の過ごし方や、病院での生活のルールなどをわかりやすく伝えてください。  
食事やトイレ、入浴、服薬、点滴など、どのような場面でどんなことに気をつけないといけないか、どんな支援が必要か、家族や支援者から詳しい情報を聞いておくことも大切です。

食事や診察、点滴の時間など、一日のスケジュールを絵や文字で表したものを、見えやすいところに貼っておくのもいいでしょう。

治療計画や退院までのスケジュールを表などを使ってわかりやすく説明してください。

痛い治療を我慢することで、病気やケガが早く治り、退院が早くなることを、わかりやすく伝えることも必要でしょう。



**Q10** 入院中、他の病室に勝手に出入りしたり、  
病院中を歩きまわったりして困ります。

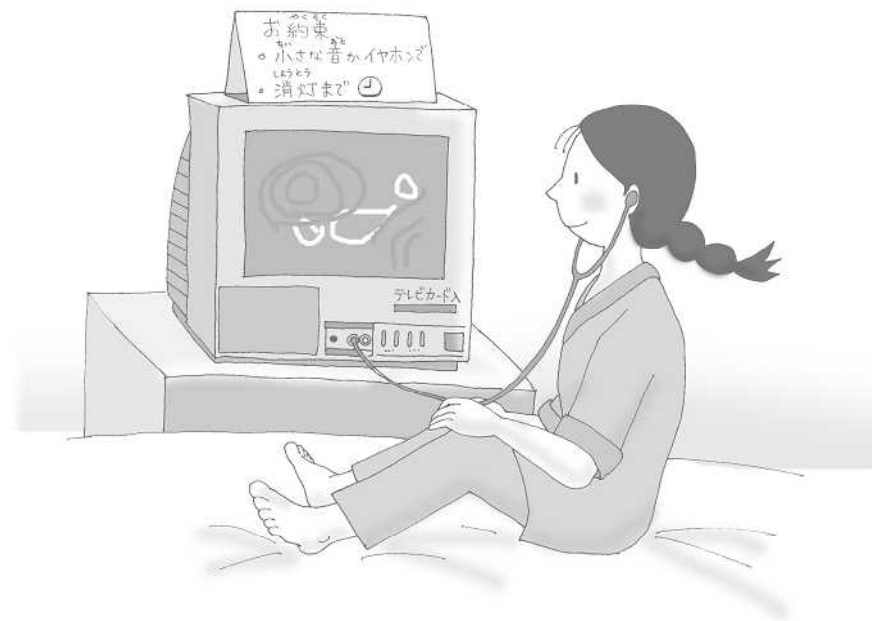
**A** 自分の病室がわからないのかもしれませんが。

⇒ 部屋の出入り口や、ベッドに目印や名前を大きく  
つけるなどの工夫をするとわかりやすくなります。

何もせず「安静にする」ことが苦手なのかもしれま  
せん。

⇒ 家族等と相談して、本人が好きなことで、ベッドで  
もできそうなことなどを見つけ出し、退屈にならな  
いよう、病院での1日の時間の過ごし方の工夫が  
必要でしょう。

また、消灯の時間やテレビの見方など、病院には特別  
のルールがあることを、そのつど伝えることも必要で  
す。



『医療機関で働くみなさまへ  
知的な障害のある人を理解してください！ Q&A 』

---

発行日 : 2007年10月

発行者 : プロテクション・アンド・アドボカシー・大阪(P&A-大阪)

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町 1-46-4

昭和土地建物ビル2F 辻川法律事務所内

ホームページ <http://www.pa-kpro.com>

表紙デザイン ・ 本文イラスト : 武井陽子

---

独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業